

県内復興・経済日誌（2022年5月）

1日

《4月のコロナ感染者数、月別最多》

県が発表した4月の新型コロナウイルス感染者数は累計15,717人に上り、月別の感染者数では過去最多となった。また、4月に発生したクラスター（感染者集団）も月別で最も多い111件となった。

4日

《県内の子どもの数、20万人割れ》

県が「こどもの日」に合わせて発表した4月1日現在の本県の子どもの数（14歳以下人口）は19万8,521人で、前年同期より5,099人減少した。記録が残る1950年以降で最も少なく、初めて20万人を割り込んだ。

5日

《日英首脳会談に福島産ポップコーン持参》

岸田文雄首相は、ジョンソン英首相との首脳会談で福島産のポップコーンを持参し、一緒に味わった。東京電力福島第一原発事故後の日本産食品の輸入規制を巡り、岸田首相は6月末までに規制を撤廃する英国の方針を歓迎した。

12日

《会津若松への教育旅行増加》

2021年度に会津若松市で教育旅行を実施した県外の小中高校は888校で、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の直前となる2010年度の841校を初めて上回ったことが会津若松観光ビューローのまとめでわかった。ビューローによると栃木県と茨城県の多くの学校が新型コロナウイルスの影響により訪問先を首都圏から会津に変更したことが増加の要因としている。

13日

《花見山観光客数、前年比2万人増加》

福島市は、同市を代表する花の名所「花見山」の開花シーズン（3月16日～5月6日）の来訪者数が今年は5万9千人となり、昨年より2万人増えたと発表した。市は「新型コロナウイルス禍の影響はあるが、花見山に活気が戻ってきた」と分析している。

18日

《只見線、10月1日全線再開》

新潟・福島豪雨（2011年7月）で会津川口～

只見間（27.6km）が不通となっているJR只見線について、県とJR東日本は10月1日に全線で運転が再開すると正式発表した。不通区間はバスで代替輸送しており、秋の行楽シーズンを前に11年ぶりに鉄路が復活する。

24日

《将来世代応援知事同盟サミット in 福島開催》

本県など21県の若手知事で作る「日本創生のための将来世代応援知事同盟」は、Jヴィレッジでサミットを開き、国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）の理念に基づき連携して地方創生に取り組む考えで一致した。共同声明「福島声明」を発表し、多様な人材が地方で活躍できる社会づくりを実践する方針を共有した。

《移動式水素ステーション開所》

アポログループ（福島市）のふくしまハイドロサプライが整備した移動式水素ステーション「ナミエナジー」が、浪江町の棚塩産業団地に開所した。相双地方では初の商用水素ステーションで、「水素タウン構想」を進める浪江町を中心に燃料電池車（FCV）の普及促進が期待される。

25日

《全国新酒鑑評会9連覇》

酒類総合研究所（広島県）は、2021酒造年度（2021年7月～2022年6月）の全国新酒鑑評会の審査結果を発表した。本県は17歳元の17銘柄が金賞を獲得し、都道府県別の金賞数では全国最多となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で金賞を選出しなかった2019酒造年度を挟んで9連覇を達成し、本県が持つ最多連続記録を更新した。

《1月～3月工場新增設届18件》

県が発表した県内工場立地状況（1月～3月）によると、工場新增設の届け出（敷地面積1,000㎡以上）は18件で前年同期と比べ13件増加した。県は新型コロナウイルス禍で新增設を控えていた企業が新たな投資に踏み切ったとみている。